

安来高校植物図鑑（2021年9月）

和名: アカバナ（赤花）

アカバナはアカバナ科アカバナ属で、花期は7～9月であり、多年生植物(個体として複数年にわたって生存する植物のこと)です。この花は夏以降に茎葉(けいよう)が紅紫色になるため、「アカバナ」という名前になりました。この花の特徴は、高さは15～90cmになり、短い腺毛(植物体の表面に生える毛)が生え、上部で多くの枝を分けることです。この花は国内では北海道、本州、四国、九州に分布し、山麓や野原の水湿地に生育します。海外では朝鮮半島、中国大陸、樺太、千島列島に分布します。(自然科学部:原) <この花は、中央にあるめしべが綿棒のような形であること、花弁の先端が2つに裂けていることが特徴です。花弁が赤紫色なのでこの名前がついたのだと思っていましたが、違って驚きました。(三代) >



和名: コミカンソウ（小蜜柑草）



雄花



雌花

先月からこの草が大きく成長し始めたことには気づいていました。9月になって例年より個体数が多いことに驚いています。ぶら下がったオレンジ色の果実が「小さいミカン」に見えることからこの名前があります。葉の裏に小さいミカンが一行に並ぶ姿にはいつも圧倒されます。果実の大きさは3mm程度ですが、本当にミカンのように、つまんでみたくくなります。しかし文献を見てみると食べられないと記載されていますので食べないように。雌雄同株で、枝の先端には雄花、枝の根元には雌花が下向きに咲きます。ぜひ葉っぱを裏返して観察してみてください。今でしたら花と果実を同時に見ることはできるのではと思います。そのうち果実だらけになります。(三代)



和名: ザクロソウ（柘榴草）

先月紹介したクルマバザクロソウの名前の由来になったザクロソウです。安来高校にはザクロソウもクルマバザクロソウも両方とも生息していたことがわかりました！多様性の高さを感じます。この2種は個体全体の姿をじっくり見ると違いがわかるのですが、花だけを見ると形が似ていて見分けがつかないかもしれません。簡単な見分け方としては、ザクロソウは長い花柄の先に花が咲きますが、クルマバザクロソウは葉のすぐ近くに花が咲きます。あと、ザクロソウのほうが葉の光沢が強いです。これが見分けられたら玄人だと思われそうですので、チャレンジしてみてください。(三代)



和名: タカサブロウ (高三郎)

まるで人名のようですが、語源は不明です。周囲に広がる花びらが舌状花で、真ん中にもいくつかの筒状花があります。タカサブロウはキク科の仲間であり、キク科の植物に特有の構造をしています。しかし他のキク科植物に比べると全体的に地味で、目立たない印象です。拡大してよく見るときれいな花なのですが。茎や葉を触ると全体的にザラッとしています。近縁種に外来のアメリカタカサブロウがあります。正直、今回の右写真の個体はどちらかわかりませんでした。種子ができるとその違いがはっきりとわかるそうですが、確認できるまでには時間がかかりそうなので。アメリカタカサブロウでしたら申し訳ありません。(三代)



和名: ナガエフタバムグラ (長柄双葉葎)

フタバムグラの変種であると言われています。フタバムグラに比べると花柄が長いのが特徴で、左の写真でも花の大きさと比べて花柄が極端に長いのがわかります。とはいえ、この花は2mm程度しかありませんので花柄も1cmくらいでしょうか。小さくて写真に収めるのに苦労しました。



花柄の長さは様々なため、フタバムグラとナガエフタバムグラを同種とみなす研究者もいるようです。花が咲き終わりすでに果実ができているものもありました。右の写真は果実ですが、やはり柄が長いですね。(三代)



和名: ヒメクグ (姫莎草)

ヒメクグはカヤツリグサ科カヤツリグサ属で、花期は7~10月であり、多年生植物です。この植物の特徴は、高さが10~25cmで、葉は柔らかく幅は2~3mmであることです。この植物の外見がやや似た植物にヒンジガヤツリというものがあります。この植物は水田によく出現し、ヒメクグと同じように花茎の先端にくす玉状の丸い穂をつけるのが特徴です。ですが、ヒンジガヤツリは穂の構造に大きく異なる特徴があるので、別属とされています。ヒメクグは日本全国に分布し、湿った日なたに多く、国外では朝鮮から中国、ウスリー地方に分布しています。(自然科学部:原)



安来高校ではカエルをよく見かけます。9月に出会ったのは左の子。コンクリートの模様に紛れてわかりにくくなっていますが、眼光は鋭いです。ところで私はカエルの種類に詳しくありません。この子はヌマガエル? ツチガエル? 詳しい方がいらっしゃいましたらぜひ見分け方を教えてください。ちなみに腹の色で見分けられるらしいのですが、腹の色は見えませんでした。(三代)

